

## 常設展

流山の歴史や民俗を13のコーナーに分けて紹介しています。約3万年前の最古の暮らしから現在に至るまで、さあ タイムトリップのはじまりです。

## 企画展

期間やテーマを設けて第2展示室で企画展を開催します。第2展示室は企画展開催時以外は、市民の皆さんの発表の場としてご利用いただけます。貸出しの詳細は、お問い合わせください。



### 【今までに開催した主な企画展】

◎流山の地名を歩く（平成26年度） ◎流山みりん誕生200年（平成26年度） ◎最新発掘速報展（平成25年度） ◎前方後方墳と方墳（平成24年度） ◎最新姫都市締結記念 石川県能登町展（平成23年度） ◎利根運河120年の記録～魅力ある土木遺産（平成22年度）

◎中世の流山をさくる（平成21年度） ◎懐かしの流山Ⅱ～風景の今昔～（平成20年度） ◎流山庚申塔探訪（平成19年度） ◎流山市の歩みと未来（平成18年度） ◎醸造のまち、流山一酒・みりん・醤油・味噌～（平成17年度） ◎新選組流山に入る（平成16年度） ◎吉野誠の世界（平成15年度） ◎市内最大の縄文集落 中野久木谷頭遺跡（平成14年度） ◎ちょっと昔のくらし（平成13年度～）

\*以下は平成13年度の展示室リニューアル以前の主な企画展

◎下縦のはにわ ◎流山の宝物 ◎懐かしの流山 ◎学校 ○貝塚は縄文時代のタイムカプセル ○写真が語る流山糧秣廠 ◎道 ○一茶の四季 ◎流山の歓敷神 ◎河川と流山 ◎流山の衣生活 ◎流山の講 ◎笹岡一・人と画業の軌跡 ◎流山の職人 ◎流山の石仏 ○絵馬 ○埴輪 ○面と民俗行事 ○仏像-流山とその周辺 ○流山郵便110年 ○鉄とわたしたち ○秋元酒造と芸術家たち ○農家のすまいとくらし ○流山と交通 ○小金牧と流山

\*◎印は調査研究報告書販売中です

## 講 座

博物館は、みなさんの身近な学びの場、講座や子ども教室を開催します。講座の内容・日程等の詳細は「広報ながれやま」やホームページ等でお知らせします。



### ■掘り出された流山■

旧石器時代・縄文時代・弥生時代の流山の姿を、発掘調査の成果をもとに紹介します。多くの遺物を含む縄文時代の貝塚は、当時の食生活や生活環境などを今に伝えるタイムカプセルのようです。



### ■古代国家と流山■

古墳時代・奈良時代・平安時代の流山。東深井古墳群から出土したさまざまな埴輪が目を引きます。市内の遺跡からは、皇朝十二銭の「神功開宝」などが発見されていて、流山と都とのつながりをうかがわせます。

### ■武士と民衆■

鎌倉時代・室町時代の流山。市内の地名「八木」が初めて記録に現れてくるのが鎌倉時代です。その後もいくつかの地名が記録に見え、当時のひととの主だった活動の範囲を知ることができます。市内に数多く残る板碑（石製の卒塔婆）も、当時を理解するための貴重な資料です。

### ■江戸幕府と流山■

江戸時代、江戸川が整備され、水運の便を得た流山。陸路も開け、物資の中継地としてにぎわいます。市の東部には小金牧が広がり、周辺の村々の暮らしに影響を及ぼしました。



▲千葉県指定有形民俗文化財  
「流山のみりん醸造用具」

### ■白みりん発祥の地■

江戸時代の後半から、流山では醸造業が盛んになります。なかでも「万上」と「天晴」の2大醸造元が競ったみりん造りは、「流山の白みりん」として全国に名を広めました。

### ■民衆文化の興隆■

地域の中で大切に伝えられてきた文化財を紹介します。流山のみりん醸造家である秋元双樹と親交を結んだ俳人小林一茶は、流山周辺に足跡を残しています。



### ■農業に生きる■

流山市域では昭和30年代半ば以降に宅地開発が進むまで、田畠や山林が広がり、多くの人が農業にたずさわっていました。米作りには多くの作業が必要とし、工程ごとにいろいろな道具が活躍しました。

### ■新選組流山に入る■

幕末、動乱の時代を駆け抜けた新選組。局長だった近藤勇が兵を率いて流山に入ったのは、慶応4年(1868)4月1日から2日のことです。間もなく、3日には駆けつけた新政府軍に降参します。3週間後、近藤は板橋(東京都板橋区)で処刑され、流山で近藤と別れた方舟藏三郎、翌春に北海道函館の地で命を落としました。短時間しか流山にいなかっただ近藤たちの様子を伝える記録はこくわずかでしたが、近年になって市内の旧家に残されている古文書に記述が見つかり、様子が明らかになってきました。



### ■葛飾県・印旛県の誕生■

幕末から明治時代の流山。明治初期の短い期間、流山は葛飾県・印旛県の県庁所在地でした。そのため、国のさまざまな制度が始まると同時に、学校などの公共機関がいち早く置かれました。

### ■暮らしを支えた交通■

江戸川は和船や蒸気船などの水運でにぎわいました。利根運河も開通し、水運が流山にいっそうの活気をもたらす一方、鉄道や陸路の整備も求められるようになります。大正5年(1916)に流山軽便鉄道(現在の流鉄流山線)が開通し、流山の人びとにとって鉄道が身近なものになりました。

### ■町や村の暮らし■

明治22年(1889)、明治の大合併を経て、流山町・八木村・新川村の一町二村が成立しました。大正時代に編さんされた町村誌などの記録から、当時の「マチ」と「ムラ」の様子を知ることができます。

### ■戦争の時代から民主主義の世の中へ■

明治から昭和の間には、いくつかの戦争がありました。人びとはどのような気持ちで、日々を過ごしたのでしょうか。戦後、市域の一町二村が合併し新制流山町が誕生、今の流山市の形がほぼできあがりました。

### ■変わり行く風景■

合併後の流山町は首都圏のベッドタウンとして急速に人口が増加し、昭和42年(1967)に市制が施行されました。その後も新しい鉄道や道路ができ、流山市に暮らす人びとは増え続けています。昔の面影を残しながらも、流山は日々その姿を変えていました。



▲江戸川台の家並み(昭和41年)